

Escape Game (エスケープゲーム)

極秘

水島工業高校放送文化部
文化祭映像作品

著作権 放送文化部（高杉誠）

【題】「Escape Game」

【主な登場人物】

※生徒① (のぶ)

生徒② (岡島)

エキストラ① (笠原)

エキストラ② (岩倉)

エキストラ③ (ジョリ)

エキストラ④ (こうや)

特殊部隊

部隊長 (RIKI)

隊員① (ジョリ)

隊員② (たかすぎ)

隊員③ (岩倉)

他隊員数人

※主人公

【あらすじ】

放課後。学校でレポートを作成していた生徒①と生徒②。インターネットを使っていると、生徒①が偶然にあるサイトを発見した。そのサイトの名前は「Escape Game」。逃げ切れば百万円という高額賞金に魅せられ、二人は遊び半分で無料体験版に登録してしまった。五分後。生徒①の元に携帯が届いた。同時に電話が鳴り、そこでゲームに選ばれたことを知らされる。ルールは簡単。制限時間三十分、その携帯を奪われないように逃げること。しかし、相手は武装した特殊部隊で、命の保障はない。そしてゲームは一方的に始まった。特殊部隊の勢いに圧倒され、逃げている途中二人は逸れてしまった。そこで携帯を持っていた生徒①は、携帯に隠された秘密に気づく。その後生徒②と合流し、ある作戦を考え出す。二人は逃げ切れるのだろうか？！

○パソコンルーム

放課後。

チャイムが鳴る。

ホワイトボードには『情報技術実習レポート今日まで！』と書いてある。

生徒数人がパソコンでレポートを作成している。

生徒①と生徒②は少し離れた所。

エキストラ①「よし、できた。」

エキストラ②「俺も。」

生徒①「嘘っ？マジ？」

他の生徒たちは印刷したレポートを前に提出して出て行く。

エキストラ③「はあ終わった終わった～。」

エキストラ④「じゃあお先。」

生徒①「おい、ちょっと。」

ドアが閉まり残された生徒①と生徒②。

生徒①「お前は・・・。」

生徒②の方を向く生徒①。

生徒②はパソコンのトランプゲームで遊んでいる。

生徒①「なわけないか。」

つぶやきながら座る生徒①。

マウスを操作している。

生徒①「ん？」

生徒①は画面に目を止める。

画面には怪しげな英文や訳が書いてあり、スクロールしていく生徒①。

生徒②「あ～くそ！」

生徒②が体をそらして声を出す。

そして周りを見渡す。

生徒②「あれ？みんなは？（振り返り）あ～よかったです。」

立ち上がり生徒①に近づく。

生徒②「いや～俺だけかとー。」

画面を覗き込む生徒②。

生徒②「何やってんの？うわ英語じやん。」

生徒①「レポートの資料探し。」

生徒②「わかんの？」

生徒①「わかんね。違うなここ。」

ページを戻そうとする生徒①。

生徒②はそれを止める。

生徒②「おいおいちょ待て待て。訳があるぞ。ん~ちっちえ。」

生徒①「何かゲームっぽいな。逃げるとか・・・。アクションか？」

生徒②「お、おい！」

画面を指差す生徒②。

生徒①「賞金百万円？！」

生徒②「登録しよう！」

生徒②は生徒①を退かして登録しようとする。

生徒①「おいルールとかもわかんないのに、後から請求とか来たらどうすんだよ。」

生徒②「どうせ鬼ごっこだろ？大丈夫だって、ほら、無料体験版あるじゃん。」

生徒①「やるなあ。」

生徒②「お、押すぞ・・。」

二人は息を飲みゆっくりとボタンを押す。

ページが自動でジャンプして、登録完了画面が出る。

生徒②「え？」

生徒①「まだ・・・何も入力とかしてないよな。」

マウスでクリックするが動かない。

生徒②「なんだあ。嘘かよ。」

生徒①「(ため息)。」

席を離れる生徒②。

生徒①はサイトを閉じる。

○部隊本部（会議室）

広い会議室。

黒の服で武装した部隊長が外を眺めて立っている。

そこへ隊員①が書類を持って入ってくる。

隊員①「隊長、二名無料体験版登録です。衛星ナンバー五・二・八・八・一。」

部隊長「(しばらく無言)・・・よし（振り返り）ブルーチーム出動だ。」

小走りで出て行く隊員①。

ゆっくりドアが閉まる

○パソコンルーム前

ゆっくりドアが開く。

生徒①が出てくる。

生徒①「終わった～。（一息）」

ふと小さな靴箱を見ると、上に携帯電話が置いてある。

手に取る生徒①。

少し遅れて生徒②走って出てくる。

生徒①と軽くぶつかる。

生徒②「おい止まんなよ。」

生徒①「(携帯を見せ) これ。」

生徒②「忘れ物？」

生徒①「ここに置いてー。」

突然電話が鳴り出す。

生徒①は生徒②の方を見る。

生徒②「出れば？」

電話に出る生徒①。

部隊長（電話）「(変声器) おめでとう。君たちは選ばれた。」

生徒①「は？」

部隊長（電話）「制限時間は三十分。我々から守るのはその携帯だ。」

生徒①「守る？我々？携帯？」

部隊長（電話）「では健闘を祈る。」

電話を切る部隊長。

生徒①「ちょもしもし？」

生徒②「誰から？」

生徒①「さあ。制限時間は三十分で、この携帯を守れって・・・。」

生徒②「何だそれ・・・。」

生徒②ドアを閉める。

生徒②「あ！それってあのゲームのことじゃね？ほらさっき登録したやつ！」

生徒①「いくらなんでも早過ぎでしょ。大体何も入力してねえじやん。」

生徒②「確かに。俺らだって分かるわけないか。」

すると遠くからカチャカチャと音が聞こえ出す。

振り返る二人。

武装した特殊部隊が現れる。

ゆっくり近づいてくる。

生徒②「これ・・・やばいんじゃないの？」

生徒①「・・・ああ。」

生徒②「とりあえず・・・。」

生徒①「逃げるぞ！」

生徒①と生徒②はダッシュで逃げ出す。

隊員たちも走って追いかける。

○曲がり角

逃げる二人。
追いかける隊員たち。

その中の隊員①が止まり無線で連絡する。

隊員①「ターゲット二名、東方向に移動開始。どちらが所持しているかは不明。」

○作戦本部前（部室前）

隊員①（無線）「繰り返す。どちらが所持しているかは不明。」
アタッシュケースなどの機材を持った隊員たちが次々と入っていく。

○作戦本部（部室）

暗い室内。
中は機材が運ばれてパソコンやモニタが置いてある。
隊員は全員武装していて部隊長が椅子に座っている。
ぞくぞくと入ってくる機材。
部隊長「各班配置につけ。」

○屋上

隊員たちが銃を構えて配置につく。
隊員②が無線で連絡。
隊員②「屋上配置完了。」

○中庭

隊員たちが見回りをしている。
隊員③が無線で連絡。
隊員③「中庭配置完了。」

○作戦本部（部室）

次々と送られてくる連絡。
エキストラ②（無線）「駐車場配置完了。」
エキストラ①（無線）「体育館配置完了。」
立ち上がる部隊長。
部隊長「了解。ゲーム開始だ。」

○時計

制限時間三十分から動き出す。

(映画『24』風)

○一棟一階廊下

生徒①と生徒②が走って来る。
後ろを確認し、歩き出す生徒①。
生徒②は少し前。
二人は止まり話し出す。
生徒②「(手をひざにつき) あぶねえ～。」
生徒①「つか、ありえないでしょ。あの格好でよく見つからないな。」
生徒②「銃持ってなかった？」
生徒①「まさか撃っては来ねえだろ。」
突然銃声と共に窓ガラスが割れる。
驚いてしゃがみ込む二人。
生徒②「撃ってきたぞ！ 犯罪だぞ！」
生徒①「なんこと知るか。あ、携帯！」
生徒②「どうすんの？」
生徒①「着信履歴あるだろ。(携帯を開き) やった。非通知じゃない。」
電話をかける生徒①。
生徒①「もしもし？ どういうことだよ！」
部隊長（電話）「(変声器) 連絡は基本的には無しだ。」
生徒①「これが無料体験版？」
部隊長（電話）「そうだ。ルールにも命の保障はしないと書いてあったはずだ。」
生徒①「・・・。」
部隊長（電話）「残り二十三分。止めたいのならー。」
生徒①「いや、逃げ切ってみせる。」
生徒②「え？ ちょ！」
電話を切る生徒①。
生徒①「よっし！ 行くぞ！」
生徒①は立ち上がり歩き出す。
生徒②「・・はあ。後で何て言われるか。」
生徒②もゆっくり立ち上がり後を追う。
割れたままの窓ガラス。

○時計

制限時間二十三分から動き出す。

(映画『24』風)

○靴箱

二人が歩いてくる。
携帯を出している。
生徒①「どっちが持ってる？」
生徒②「ん～。」
足を止める二人。
前から隊員たちが走ってくる。
生徒①「来た来た。」
二人は振り返り逃げようとする。
しかし後ろからも隊員が近づいてくる。
生徒②「わ、ど、どうすんだよ。」
生徒①「二手にわかれよう。」
生徒②「携帯は？」
近づいてくる隊員たち。

○作戦本部（部室）

部隊長は立って指示を出している。
隊員①「隊長、ターゲットが二手にわかれたそうです。」
部隊長「・・・考えたな。」

○中庭

生徒②が走ってくる。
生徒②「やばいやばい。」
辺りを見渡す生徒②。
遅れて隊員たちが追いかけてくる。
しかし生徒②の姿はなくそのまま走り去る。
生徒②は銅像の後ろで同じ格好をして隠れている。

○四棟三階階段付近

逃げる生徒①。
その後ろを追いかける二人の隊員。
生徒①は廊下に出て壁に隠れる。
現れた警備員二人のうち、一人を足で蹴り倒す。
もう一人の腕を取りひねって一回転させて倒す。

○一棟二階渡り廊下

小走りの生徒①。

すると図書室から生徒②が顔を出し手招きしている。

生徒②「(小声) こっちこっち。」

○図書室

椅子に座りながら話す生徒②。

生徒②「はあ～疲れた。」

生徒①は外を見て警戒する。

生徒①「巻いたな。」

生徒②は携帯を取り出す。

生徒①も席に座る。

生徒②「こっちの動き読まれるな。あ！」

携帯を落とす生徒②。

生徒①「何やってんだよ。」

生徒①は拾おうと机に潜る。

生徒①「あ！」

生徒②「え？ 壊れた？」

慌てて携帯を見せる生徒①。

カバーが外れた携帯の裏に発信器が付けられている。

生徒①「発信器だよ。これで居場所を確認してたんだ。」

生徒②「そうか。よし、貸せ。」

生徒①から発信器を奪い投げつけようとする生徒②。

生徒①はそれを止める。

生徒①「待て待て待て！ これは使えるぞ。」

生徒②「・・・だよなあ。(微笑)」

○時計

制限時間十四分から動き出す。

(映画『24』風)

○三棟三階廊下

隊員たちが二人を探している。

隊員②「こちら異常なし。」

階段を下りていく隊員たち。

少し遅れて隊員③が下りようとする。

その時横の屋上から音が聞こえる。

柵を乗り越え進む隊員③。

○屋上

ゆっくりと後ろから現れ隊員③のヘルメットを奪う生徒①。

隊員③は振り返り銃を構える。

その時前から生徒②が手を叩く。

また振り返る隊員③。

そして生徒①が後ろからヘルメットで隊員③を殴る。

生徒②「痛そ～。」

倒れた隊員③の服を脱がし始める二人。

生徒①「いいか。チャンスは一回。残り五分になった時だぞ。」

二人は無言で握手を交わす。

○作戦本部（部室）

慌しい室内。

部隊長「もう時間がないぞ。位置は？」

隊員①「食堂に向かっています。」

そこへ隊員たちが帰ってくる。

その中に混じっている生徒②。

生徒②は受信機を確認して近づく。

時間を確認する。

部隊長「各部隊を食堂に向かわせろ。」

指示を出している部隊長の隙について受信機のスイッチを切る生徒②。

時計はちょうど四分台に変わる。

モニタからターゲットが消える。

エキストラ③「隊長！ターゲットが消えました！」

部隊長「何？！」

ゆっくりとまた受信機のスイッチを入れる生徒②。

エキストラ③「点きました！ターゲットは自転車置場です。」

部隊長は無線を取る。

部隊長「全隊員自転車置場へ。」

○自転車置場

部隊長（無線）「自転車置場だ。」

隊員たちが走ってくる。

一人の生徒（エキストラ④）がいる。
隊員たちはエキストラ④を囲む。
エキストラ④「うわあ！何？」
携帯を探す隊員。
しかし、出てきたのは発信器。

○作戦本部（部室）

エキストラ②（無線）「やられました。発信器だけです。」
後ろでばれない様に喜ぶ生徒②。
部隊長「時間は？！」
隊員②「残り一分！」

○時計

制限時間一分から動き出す。
(映画『24』風)

○五棟一階廊下

生徒①が小走りで走っている。
生徒①「あと一分、あと一分、あと・・・。」
生徒①は遠くで隊員②を発見する。
慌てて隠れる。
隊員②がいなくなろうとした時、生徒の（エキストラ①）が呼ぶ。
エキストラ①「生徒①じゃん。何隠れてんだよ？」
振り向く隊員②。
気づかれ逃げる生徒①。

○作戦本部（部室）

隊員②（無線）「第五棟より、ターゲット発見！」
部隊長「よし時間がない！急げ！」

○五棟一階廊下

逃げる生徒①を追いかける隊員たち。

○時計

制限時間二十秒から動き出す。
(カウントダウン)

○作戦本部（部室）

状況を見守っている。

○時計

制限時間十秒から動き出す。

（カウントダウン）

○五棟一階階段付近

逃げる生徒①を追いかける隊員たち。

○時計

制限時間五秒から動き出す。

（カウントダウン）

○五棟一階階段

生徒①は足がもつれてこける。

○作戦本部（部室）

拝んでいる生徒②。

○時計

制限時間二秒から動き出す。

（カウントダウン）

○五棟一階階段

銃を生徒①に構える隊員たち。

同時にタイマーが鳴る。

生徒①「(肩で息)・・勝ったあ・・。」

○作戦本部（部室）

生徒②「よっしゃ～！！！」

ガツツポーズの生徒②。

それを見つめる隊員や部隊長。

○作戦本部前（部室前）

部隊長と生徒①、生徒②。

部隊長「今回は負けだ。次は正式登録でするか？」

生徒②「いやいやいや～。」

部隊長「(肩を叩き) 冗談だよ。(笑)」

生徒①「じゃあ、俺らそろそろ帰るわ。」

部隊長「ああ。では。」

帰ろうとする二人。

それを呼び止める部隊長。

部隊長「最後に聞きたいんだが、ゲームの感想は？」

二人は同時に振り返る。

二人「最高！！」

END

【役者詳細】

特殊部隊

黒の服装、ヘルメット

黒のダウンジャケット、手袋

黒スプレー、大きな黒い布

エアガン、ペンライト、サングラス

生徒

制服（冬）

【その他小道具】

虫眼鏡

大量のプラスチック

これらの衣装・小道具は、監督である高杉ができる限り自費で用意します。

しかし、全てを用意するのは不可能なので、協力してください。後から部費で落ちるよう手配するので、自分の家にある物を持って来たり、買ったりしてください。用意した物は、予定表通り八月七日に持参してください。

全員で、最高の映画を作りましょう！